

声

患者体験を経て、今、
看護師に届けたい
“声”があります。

元気に過ごしています

24年前の11月、転落事故によって意識不明のまま病院に搬送。ただちに頭部開頭
の手術と、意識が回復した1週間後に脊髄の手術を行いました。術後、妻は担当ドク
ターから「一生車椅子です」と宣告されていたそうですが、私には知らされないまま
でした。

結婚して2年半の私たち。妻は2人の子どもを実家に預け、毎日私のそばに付き添
ってくれました。入院中、病棟看護師さんたちは私たち夫婦にとっても優しく、近くを
通るたびに様子をのぞいてくれたり、さりげなく声をかけてくれたり、気にかけてく
ださいました。車椅子への移乗もままならない私を、夜勤の看護師さん総出で車椅子
に乗せてくれ、そのまま病棟屋上へ連れ出してくれたこともありました。看護師さん
たちの粋なはからいで、夫婦で初日の出を見ることができました。

担当ベテラン看護師さんからは、現在のようにインターネットが普及しておらず車
椅子の情報が皆無で不安になっていた妻に対し「車椅子でも生活できるから大丈夫よ」
と言って、心のサポートまでしてくれたそうです。

転院の関係で搬送先の病院での入院期間は3カ月半でした。「頭部外傷」「脊髄損傷」
と宣告されつらい日々ではありましたが、看護師さんのおかげで救われたのも事実です。

転院の際にいただいた病棟看護師およびドクターからの寄せ書きは、今でもわが家
の宝物です。読み返すたびに当時を思い出します。そして、改めて感謝の気持ちがこ
み上げます。本当にありがとうございました。

その当時の担当看護師さんとは現在でも年賀状で近況報告を続けています。



栗林稔昌

「栗林福祉建築事務所」代表・
管理建築士(HP: [http://
8343kuribayashi.com/](http://8343kuribayashi.com/))。バ
リアフリー住宅・脊髄損傷者
住宅・頸髄損傷者住宅を車椅
子建築士が提案する。「脊髄
損傷者友の会」代表。

